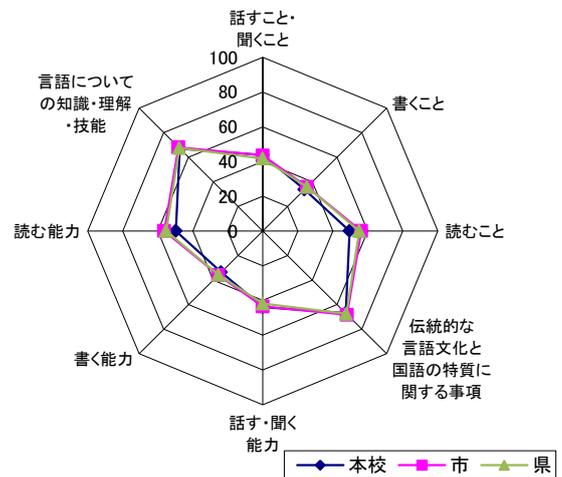


# 宇都宮市立峰小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	43.8	43.5	41.8
	書くこと	33.7	35.9	35.8
	読むこと	49.6	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.0	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	43.8	43.5	41.8
	書く能力	33.7	35.9	35.8
	読む能力	49.6	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	67.0	68.2	67.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語では、唯一市・県の平均を上回っている。「話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる」の正答率が特に高い。 ●「進行に沿った話合いをする」は、正答率が市・県の平均とほぼ同じであるが、無解答率が32.6%と、市・県の平均より15%ほど高い。	・国語の授業だけでなく、日常生活の中において、話の内容を正確に聞き取ることができるよう、「聞く」心構えを継続して指導する。 ・朝の会の1分間スピーチ、学級活動の話合い、授業中などで、話し方の工夫に気を付けて発表する態度を身に付けることができるよう指導する。
書くこと	○「招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する」は、市・県の平均と同等である。 ●「話合いを基に、招待状に付け足す文を記述する」は、無解答率が54.7%であり、市・県の平均と比べると約20%高く、活用問題に弱い面が見られる。	・学校行事や学年活動でお礼の手紙や招待状を書く際には、読み手に伝えたい事柄を正確に伝えられるように注意することや、あいさつの言葉を入れることなどの点に留意して書くことができるよう、その都度丁寧に指導していく。
読むこと	●「目的に応じて文章を要約する」は、正答率が1ケタと深刻な結果である。「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」「叙述を基に、登場人物の性格などについて想像して読む」の正答率は、市・県の平均と比べ、10%前後低い。	・説明文の読み取りでは、目的や必要に応じて文章の内容を読み取る学習を重点的に指導する。 ・物語文の読み取りでは、教材文の叙述に着目させて考えることができるように、発問などを工夫して指導していく。 ・朝の読書タイムを有効活用したり、学校図書館を常時利用するよう言葉かけをしたりして、「みね読書人活動」の充実を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字の書き」「反対の意味の言葉」の正答率は、市・県の平均を約3%上回り、「簡単な単語のローマ字による書き方」の正答率は約9%高く、よく身に付いている。 ●「漢字の読み」は、市・県の平均に比べて全般的に低く、特に「平等」という熟語の読みの正答率は26.7%であり、市・県の平均に比べ13%ほど低い。	・漢字の読み書きについては、新出漢字の練習と併せて既習の漢字練習も行えるように、プリントなどを準備し、定着を図る。また、ドリルや家庭学習でも繰り返し練習し、定着を図れるようにする。 ・国語辞典の使い方については、授業で活用する場を多く設定し、使い方に慣れていくようにする。新しい語句が出てきたときには意味を調べ、語彙を増やす機会を設定していく。